

四国の
「地域循環共生圏」を
創造する！

ローカルSDGs四国（LS四国） 令和7年度 総会



四国の自然資本、豊かな自然環境を保全しながら地域循環で
活性化する四国の未来を創造することをイメージして、生物
多様性折り紙を使った四国地図を使っています。



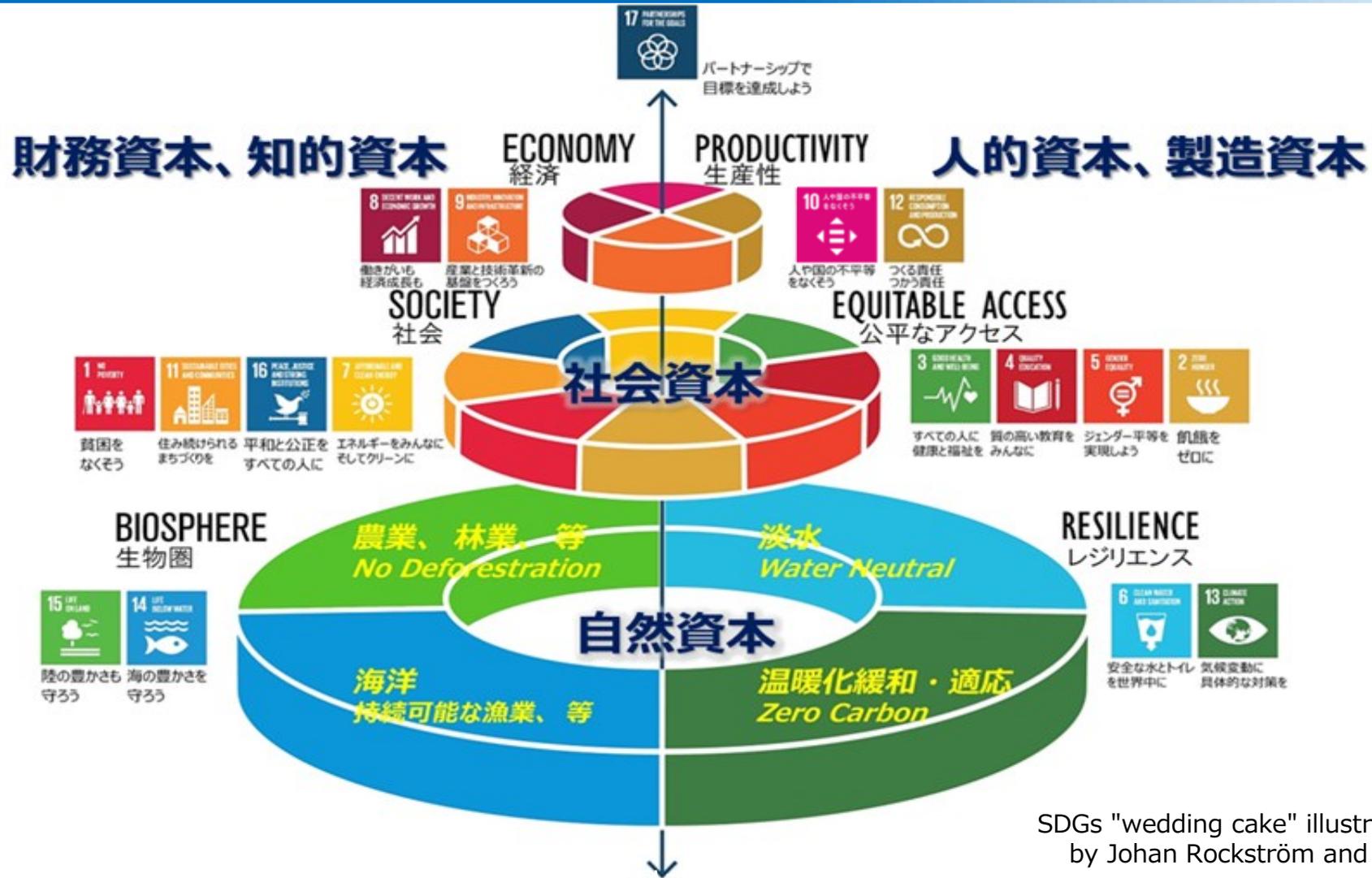
令和7年7月11日
ローカルSDGs四国

開会挨拶

大林 圭司
LS四国共同代表

中国四国地方環境事務所四国事務所長

環境・社会・経済の統合的向上が不可欠

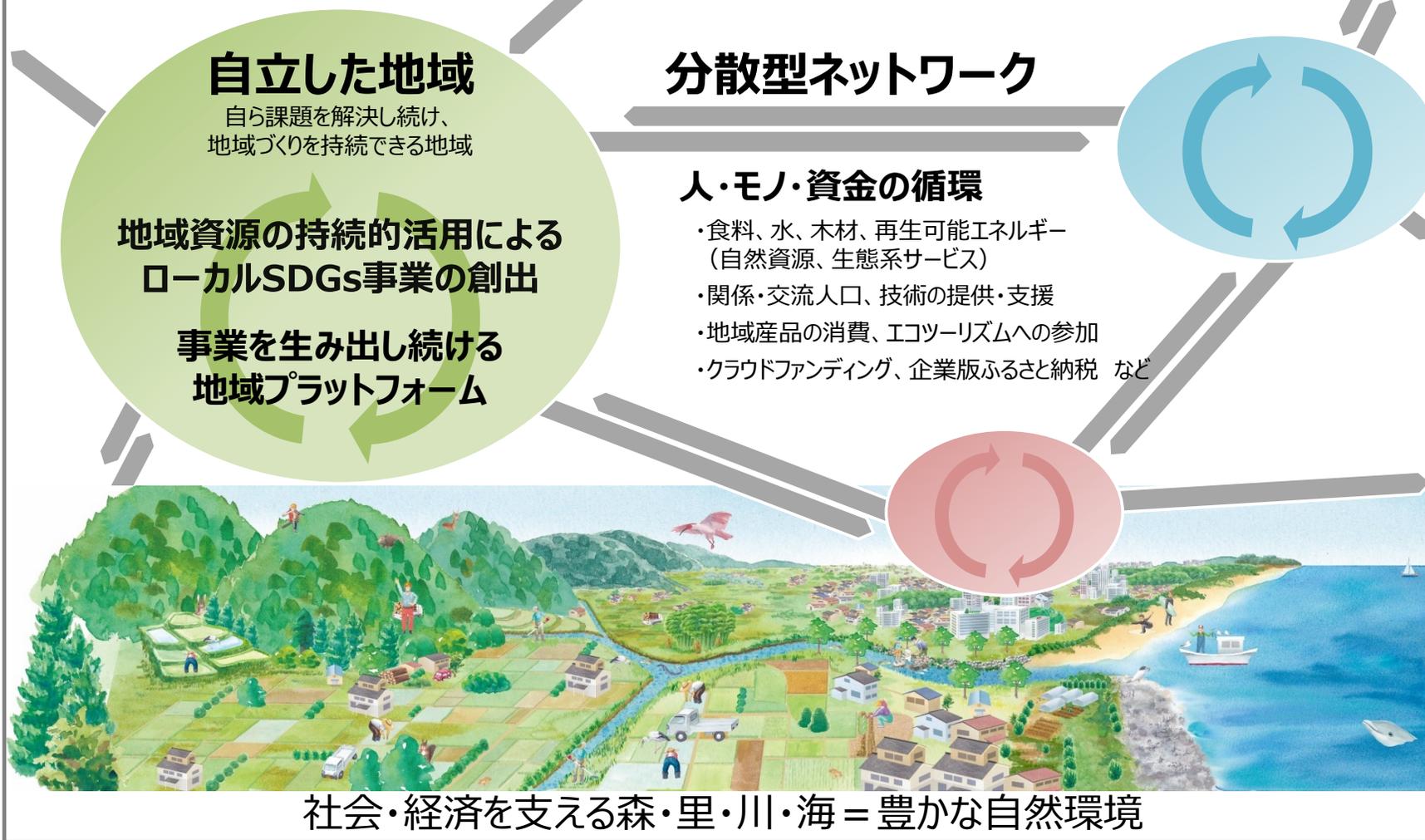


SDGs "wedding cake" illustration presented by Johan Rockström and Pavan Sukhdev

SDGsは環境・社会・経済に統合的に対応
 Transforming our world

地域循環共生圏 = 自立・分散型の持続可能な社会

地域の主体性:オーナーシップ 地域内外との協働:パートナーシップ 環境・社会・経済の同時解決



地域循環共生圏（2018、第5次環境基本計画）とは、**地域資源を活用し、環境・経済・社会を良くしていくビジネスや事業（ローカルSDGs事業）**を社会の仕組みに組み込むとともに、例えば都市と農村のように、地域の個性を活かして**地域同士で支え合うネットワークを形成**するという、「**自立・分散型社会**」を示す考え方。その際、私たちの暮らしが森・里・川・海の連関からもたらされる豊かな自然環境に支えられていることを基本とする。

ビジョン

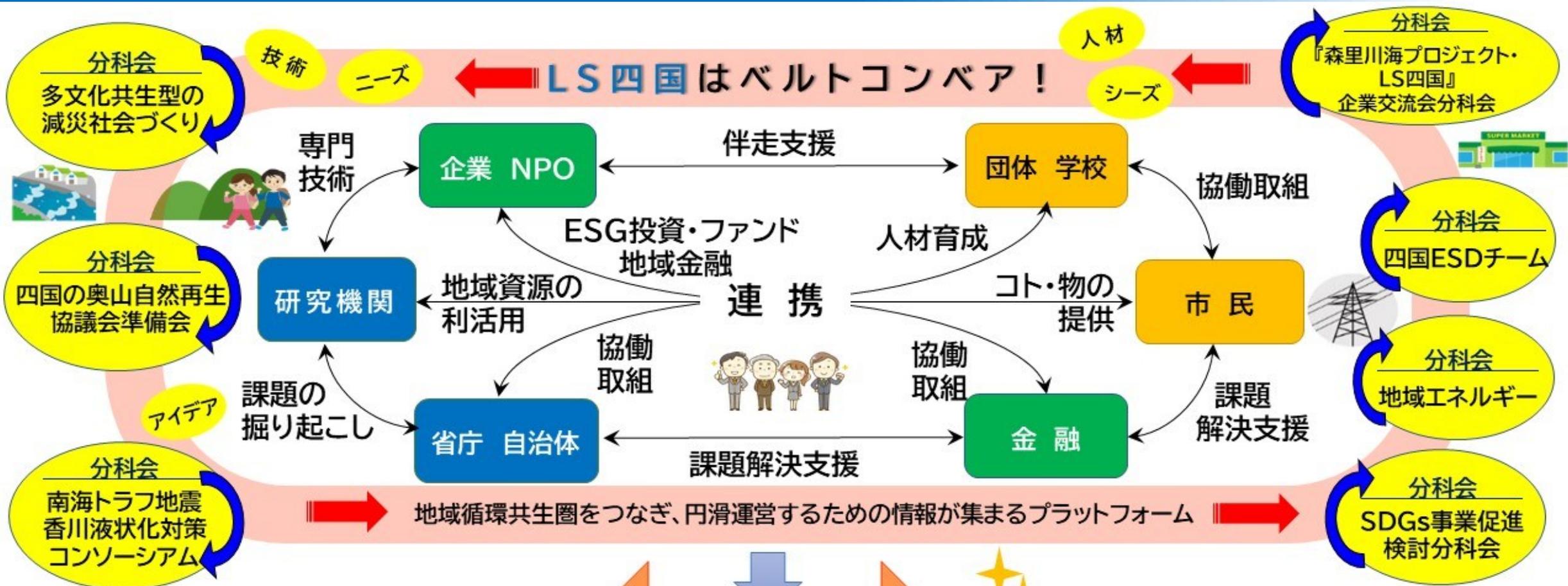
いのち輝く、青い国・四国を次世代へ

自然資源の恵み・つながりを活かし、伝え、
地域・社会がそれぞれの特性を発揮しながら、連携して支え合い、
SDGsの目指す環境・社会・経済の調和を図りながら持続発展する、
活力あふれる四国地域の創造

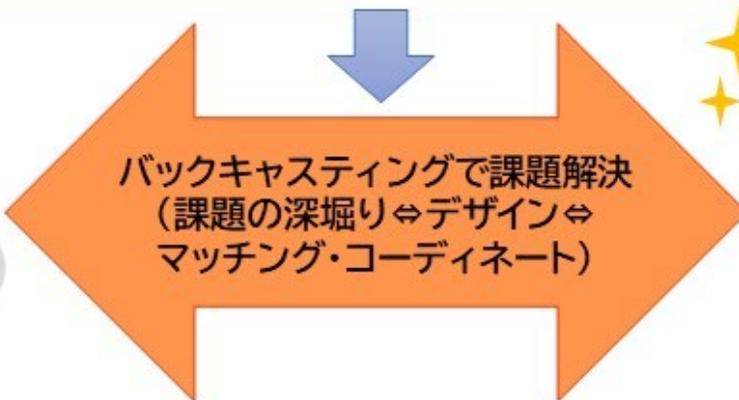
行動指針 ビジョン達成のためローカルSDGs（地域循環共生圏）を尊重し行動する。

1. ローカルSDGsの考え方を実践する場づくりを進めます。
2. ローカルSDGsの視点をもった創り手の発掘、育成を進めます。
※科学的根拠に基づいた調査研究、知見を活用
3. イノベーションの導入やESGの視点を取り入れたビジネスの創出及び地域経済循環の向上を目指します。
4. 自然と人が共生する循環型社会を構築し、脱炭素化へのパラダイムシフトを進めます。

ローカルSDGs四国 イメージ



- 地域課題**
人口減少 高齢化 過疎化 雇用創出
コミュニティの消失 産業創出 ...
- 環境課題**
脱炭素社会(再エネ) 異常気象
災害対応 耕作放棄地 獣害 ...



**魅力ある持続可能な四国
(ローカルSDGsの実現)
環境・経済・社会の両立**

定足数の確認 総会成立報告

報告 令和6年度 事業報告

会員（2025/6/23時点）

団体会員：225団体、個人会員：5名

※会員内訳

企業・金融機関・その他関連団体	： 130
市民団体・NGO・NPO・その他団体	： 39
自治体・政府関係機関・公益法人等	： 51
大学・研究機関・教育関連機関	： 5

アドバイザー

伊香賀俊治氏（（一財）建築環境・省エネルギー機構理事長）

川久保俊氏（慶應義塾大学）、森沢伊智郎氏（（株）野村総合研究所）

連携

金融庁と環境省の連携チーム

指標項目	R3(2021)年度(参考)	R4(2022)年度	R5(2023)年度	R6(2024)年度
会員登録数	48→78(162%↑)	176(226%↑)	205(116%↑)	222(108%↑)
分科会	3	6	7	7

協力機関 (2025/5/31時点)

15機関

消費者庁

新未来創造戦略本部

四国総合通信局

四国財務局

農林水産省

中国四国農政局

林野庁

四国森林管理局



経済産業省

四国経済産業局

国土交通省

四国地方整備局

四国運輸局



徳島大学

TOKUSHIMA UNIVERSITY



国立大学法人

鳴門教育大学



香川大学



愛媛大学

EHIME UNIVERSITY



高知大学

Kochi University



DBJ

日本政策投資銀行
Development Bank of Japan



JFC 日本政策金融公庫

◆四国ESDチーム

事務局：四国ESDセンター

- 教育を基軸とした取組内容の検討
- ESD拠点ネットワークとの協働

◆地域エネルギー分科会

事務局：株式会社平野

- 四国の資源を活用した再エネの導入
- 健康で心豊かな暮らしの実現の事業化

◆多文化共生型の減災社会づくり

事務局：NPO法人四国グローバルネットワーク

- 平時からの自助・共助推進ネットワークづくり
- 在住外国人向け防災・減災教育教材づくり

◆SDGs事業促進検討分科会(活動休止中)

事務局：三井住友信託銀行 松山支店

- 金融機関が協働し、SDGs評価スキームを検討
- 地元企業のSDGsに関する取組を把握・支援

◆南海トラフ地震

香川液状化対策コンソーシアム

事務局：株式会社FACE

- 液状化メカニズムの学びから防災意識を高める
- 液状化関連情報を紹介し、震災時の減災に努める

◆四国の森自然再生ネットワーク

事務局：特定非営利活動法人由良野の森

- 森づくりに必要なノウハウを共有
- 四国内での自発的な森づくりを促す

◆『森里川海プロジェクト・LS四国』 企業交流会分科会

事務局：株式会社藤木工務店四国支店

- 四国における地域循環共生圏の考え方を深め、普及啓発を推進
- 志を共にするメンバーの拡大と交流、また場づくりの推進

事業実施体制

■役員一覧(R7(2025)年3月末時点9名)

共同代表	近森 憲助 (鳴門教育大学名誉教授・R6(2024)年8月逝去) 大林 圭司 (中国四国地方環境事務所四国事務所長)
副代表	島田 治男 (香川県中小企業家同友会副代表理事) 山村 直史→田村 えり子 ((独行)国際協力機構四国センター(JICA四国)所長)
委員	谷川 徹 (四国生物多様性ネットワーク事務局) 笠井 誉子 ((株) r e クラレット代表取締役、 (特非)GWEI(ジーウィアイ/ Glocal Women' s Empowerment Initiative)理事長) 徳島県危機管理環境部グリーン社会推進課長→同サステナブル社会推進課長 香川県環境森林部環境政策課長 愛媛県県民環境部環境局環境・ゼロカーボン推進課長 高知県林業振興・環境部環境計画推進課長
事務局	中国四国地方環境事務所四国事務所 四国環境パートナーシップオフィス

■実施業務内容(環境省四国事務所と四国EP0協働運営)

- 一週1回定例会開催(進捗共有)
- 一総会、企画運営委員会2回/年
- 一登録会員増のための普及啓発
- 一イベント開催
- 一情報提供、広報発信

【ふりかえり・成果】

- ①近森先生の逝去に伴い、次期共同代表依頼に向けて調整を行った。
- ②役員の変動に伴う新任者への引き継ぎのフォロー等を行い、体制を維持に務めた。
- ③環境省四国事務所と四国EP0の事務局担当の入れ替わりがあったが、双方で役割分担しながら事業を進めることができた。

【課題】

- ①役員の変替・引継は、平時からの事業理解が重要。
- ②次期、共同代表・副代表候補を想定した役員体制を整える必要がある。
- ③事務局体制の強化。
- ④新規登録に向けた継続的な働きかけ、退会・活動が確認できない企業等の扱いについて

取組内容

◆地域課題解決に向けた支援

- ・地域課題解決の深掘り、マッチング支援
- ・協力団体・企業の先進事例紹介

◆情報収集・発信・共有

- ・勉強会・交流会等の開催
- ・HPでの発信、メルマガ・SNSの活用、表彰制度

◆ローカルSDGsの視点をもった創り手の育成

- ・分科会活動支援、研修、講演

令和6年度取組概要

- ① マッチング・仲間づくり、さらにその後の事業創出につながる対話の場・共創の場づくり（※イベント等）
- ② 広報の強化
- ③ 分科会活動の活性化（強化）・共有化
- ④ 2030年に向けたLS四国ロードマップ作成・検討
- ⑤ 課題解決支援チーム・協力機関との連携

①ネットワーク・仲間づくり、さらにその後の事業創出につながる 対話の場・共創の場づくり（※イベント等）

【具体的なアクションプラン】

- 一歩を踏み出すきっかけづくりや取組を行う仲間づくりを促す勉強会、対話の場・共創の場を開催（主催イベント＋総会、表彰式）。
- イベント後に形成されたコミュニティ（グループ）を適宜フォローできる体制づくり。

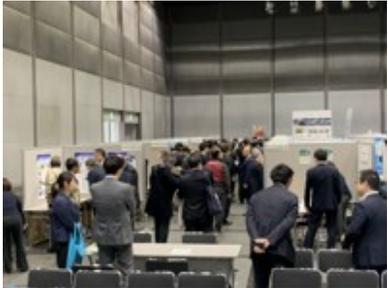
※ローカルSDGsに資する取組・事業創出に向けて、体制強化を行う。

I 総会（7月8日開催）

テーマ	四国の課題を俯瞰、解決に向けたアクションへつなげる
目的	LS四国が目指すべき方向性や可能性、具体例を会員が認識・理解を深め、令和6年度の事業方針を決定した。
開概 催要	時間：14:00～15:30 場所：サンポート合同庁舎アイホール・ZoomによるWEB会議 出席：210会員の内133会員（会場出席19、オンライン出席38、議長委任74、書面出席2） 内容：①議題 <ol style="list-style-type: none"> 1 規約の改定について 2 役員選出について 3 令和6年度 事業計画(案)承認 ②分科会活動報告 ③協力機関からの情報提供・交流会



II 四国内におけるネットワーキング会（1月30日開催）

テーマ	「ローカルSDGs四国ネットワーキング会—成長のカギは2つのC—」
目的	地方公共団体と民間事業者等との間で人的ネットワークを構築し、気候変動を含む地域課題の解決を推進していくことを目的とする。
概要	<p> 催要 </p> <p> 時間：13:00～16:00 場所：高松シンボルタワー ホール棟1F 展示場（香川県高松市） 主催：環境省四国事務所、LS四国、四国経済連合会 協力：四国経済産業局 参加：212名、24事業者（LS四国会員、他、新規事業者等） 内容：基調講演1：「2030年カーボンハーフ実現に向けた東京都の取組について～建築物環境報告書制度の概要～」 （東京都環境局気候変動対策部環境都市づくり課） 2：「住友化学の炭素循環をめぐる挑戦」 （住友化学(株)炭素資源循環事業化推進室） </p> <p> ネットワーキングタイム※各出展ブースにおいて自由に交流 </p> 

Ⅲ 表彰式（2月20日開催）

テーマ	地域循環共生圏に資する取組や活動を表彰
目的	LS四国のビジョン・行動指針の内容に即し、ローカルSDGs（地域循環共生圏）の考え方に資するすぐれた事業・取組を表彰し広く紹介する。
開催概要	<p> 対象：四国内で地域循環共生圏に資する取組を行っている団体 場所：BBスクエア（香川県高松市） 参加：28名 内容：17件の応募のうち5団体が選定され、事例発表と表彰式を行った。 </p> <ul style="list-style-type: none"> ■ローカルSDGs四国大賞/地域課題解決部門賞 学生服リユースshopさくらや（香川県） ■チャレンジ部門賞（特非）はなもりびと（愛媛県） ■ユース部門賞 弓削商船高等専門学校（愛媛県） ■審査員特別賞 徳島県立城西高等学校神山校（徳島県） 社会福祉法人光志福祉会（香川県）



IV その他：分科会と連携した情報交換会（11月19日、3月2日開催）

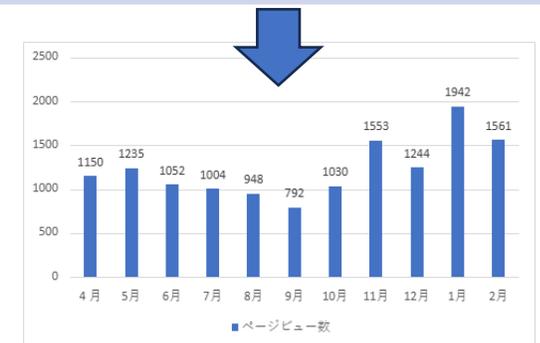
<p>テーマ</p>	<p>LS四国分科会との連携による情報交換会 ①地域エネルギー分科会「四国の環境を考える会」協力（11/19） ②多文化共生減災社会づくり分科会「ワークショップin丸亀」（3/2）</p>
<p>目的</p>	<p>分科会活動活性化と相互参照によるSDGs達成に向けた機運醸成・取組の横展開</p>
<p>概要</p>	<p>①場所：土佐御苑（高知県高知市） 主催：高知県中小企業家同友会環境・ディーセントワーク委員会 参加：38名（企業、LS会員、自治体関係者） 内容：基調講演「再生可能エネルギーと地域脱炭素ビジネスについて」（清水広行氏（エネシフ湖北代表））の後、意見交換</p> <p>②場所：丸亀市生涯学習センター（香川県丸亀市） 共催：JICA四国センター、LS四国、（特非）四国グローバルネットワーク、 後援：丸亀市、高松出入国管理局、協力：丸亀市国際交流協会 講師：江夏猛史（（特非）減災教育普及協会理事長）、山崎水紀夫（さんすい防災研究所代表）、上原由雅（はずむ日本語代表）、丸亀市危機管理課 出席：約40名 内容：減災・防災、やさしい日本語の講義、在住外国人向けのワークショップを開催。減災防災に加え、異文化理解、多文化共生等について考える機会を提供した。</p>



②広報の強化

指標項目	R3(2021)年度(参考)	R4(2022)年度	R5(2023)年度	R6(2024)年度
表彰数 (取組発掘数)	第1回 5件 (14件/チャレンジ4/ ユース5)別枠募集	第2回 5件 (15件)	第3回 5件 (12件)	第4回 5件 (17件)
主催共催 イベント (集客数)	EGG金融S(120) 森林活用DL(150) SDGs未来都MTG(40)	地域脱炭素F(130) 森里川海NWMTG(30)	防災いろいろESD(15) 地域脱炭素創生 NW(80)	LS四国NW会(156) 第4回自治体デジ博環境(17) 多文化共生減災WS(41)
ニュースレター	No2	No. 3、4	No. 5、6	No. 7、8
HP(記事掲載数)	459件(38件/月)	488件(41件/月)	483件(40件/月)	200件(16件/月)
HP(閲覧数)	10,203 (850/月)	55,138(4,595/月)	25,701(2,256/月)	14,195(1,183/月)

- ※1 表中略語補足 S:セミナー、DL:ダイアログ、MTG:ミーティング、F:フォーラム、NW:ネットワーキング、WS:ワークショップ
- ※2 FBやインスタグラム、Xは四国EPOと共用。会員内連絡はKintoneとメーリングリストを使用



③分科会活動の活性化（強化）・共有化

【具体的なアクションプラン】・分科会事務局との連絡調整、情報交換を行う。

分科会	応援・支援内容
四国ESDチーム	<ul style="list-style-type: none"> ・バーチャル大学の強化支援 ・SDGs・ESDエコツアーの設計・実施のサポート ・四国ESDフォーラムの開催サポート など
地域エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業家同友会と連携し、再エネの普及啓発等のイベント等行う。
多文化共生型減災社会づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・丸亀市でワークショップを実施する。
SDGs事業促進検討分科会	<ul style="list-style-type: none"> ・広報PR、活動支援、その他必要に応じた支援
南海トラフ地震香川液状化対策 コンソーシアム	<ul style="list-style-type: none"> ・広報PR、活動支援、その他必要に応じた支援
四国の森自然再生ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・広報PR、活動支援、その他必要に応じた支援
『森里川海プロジェクト・LS四 国』企業交流分科会	<ul style="list-style-type: none"> ・広報PR、活動支援、その他必要に応じた支援

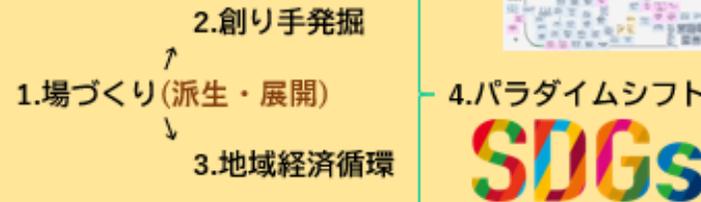
④ロードマップ

●識者懇談会(2023年9月23-24日) 『行動指針に関わる注目テーマ』抽出

- 1 場づくり：公共スペース
- 2 創り手発掘：教育・人材育成
- 3 地域経済循環：ファンド、資金
- 4 パラダイムシフト：消費者思考、Re、シェア



●役員意見交換会(2023年10月29-30日) 『パラダイムシフトにつながる 状況・状態とそのロジック』整理



LS四国ロードマップ作成検討のためのアンケート
(2024年6-7月)回答者：138名

- ①22の事例
- ②行動指針優先順位(ほぼ同数)
- ③広報
- ④適切な課題設定
- ⑤具体的な行動
- ⑥LS四国の役割への意見

●役員意見交換会 (2025年2月20日)



【成果】

- ①1～4の行動指針に関わる取組みは、優先順位をつけずバランスよく実施することが肝要であることを確認した。
- ②イベントごとの参加者数、マッチング数などの数値目標の設定が重要。
- ③目標達成に資する具体的な方法(ネットワーキング会等)が拮めた。

【課題】

- ①分科会の活性化。
- ②LS四国への会員登録数増加に向けた目標設定とその体制づくり。
- ③アプリや既存の仕組みを活用した発信・周知の仕組み

議長の選出

議題 1

規約の改定について

規約の改定について



■現在

(役員)
第8条 本会に、次の役員を置く。
(1) 共同代表 2名以上
(2) 副代表 2名以上
5 副代表は、共同代表を補佐し、共同代表に事故があるときは、その職務を代行する。

附 則
この規約は、令和6年7月8日から施行する。

■改定案

(役員)
第8条 本会に、次の役員を置く。
(1) 共同代表 2名~~以上~~
(2) 副代表 1名以上
5 副代表は、共同代表を補佐し、共同代表に事故~~等~~があるときは、その職務を代行する。

附 則
この規約は、令和7年7月11日から施行する。

■規約改正提案の理由

令和6年度後半は、代表1名と副代表2名の合計3名で対応し、支障が生じなかったため改正を提案する。この改正により、今後、複数名の役員交代が生じた場合でも、柔軟に対応できるようにする。

議題 2

役員選出について

役員・事務局体制（案）

役職	役員名（所属）
共同代表	島田 治 男（香川県中小企業家同友会副代表理事）（新任）
	大林 圭 司（中国四国地方環境事務所四国事務所長）
副代表	田村 えり子（（独行）国際協力機構四国センター（JICA四国）所長）
委員	大美 光 代（（公財）たかまつ讃岐てらす財団代表理事）（新任）
	谷川 徹（四国生物多様性ネットワーク事務局）
	西成 典 久（香川大学経済学部経済学科創発科学研究科創発科学専攻教授）（新任）
	松本 進 一（徳島県生活環境部サステナブル社会推進課長）
	石川 史 郎（香川県環境森林部環境政策課長）
	大内 美 世（愛媛県県民環境部環境局環境・ゼロカーボン推進課長）
	田村 和 彦（高知県林業振興・環境部環境計画推進課長）
事務局	中国四国地方環境事務所四国事務所 四国環境パートナーシップオフィス

議題3

令和7年度 事業計画（案） について

ローカルSDGsをテーマとした最新情報の提供とLS四国の会員と関係者の交流促進、新たなつながりづくりを進める目的で総会を開催する。また、LS四国規約に基づき、会を運営し、企画及び運営に必要な事項について役員からの承諾を得て進める。

■企画・運営委員会

回数	2回程度（7月11日(金)+事前協議）、11月頃
開催時間	1回当たり2時間程度
場所	①高松サンポート合同庁舎アイホール、②四国EP0事務室、①②オンライン併用
留意事項	事務局が作成した（案）に対して、LS表彰の審査方法や広報等について、役員からの提案や意見が出やすい場づくりや進行を心がける。

令和7年度 事業計画（案）（詳細）



■ 総会・交流会

目的	ローカルSDGsをテーマとした最新情報の提供、LS四国会員と関係者の交流促進、新たなつながりづくりを促進するきっかけの場とする。
日程	7月11日(金)14:00~16:00
対象	①LS四国役員・会員・協力機関、②LS四国関係者
場所	高松サンポート合同庁舎アイホール（香川県高松市）とZoomによるハイブリッド開催
内容	<ul style="list-style-type: none">・令和7年度 事業計画（案）について・分科会活動紹介・交流会
留意事項	<ul style="list-style-type: none">・LS四国の重要な土台となる概念「地域循環共生圏」への理解を深め、活動の活性化につながるヒントや気づきを得る企画構成とする。・分科会活動紹介と新たな地域課題活性化に向けた分科会の立ち上げ等の呼びかけ。・LS四国表彰の応募やネットワーキング会等の紹介。・既存の会員からの紹介などを通して、新規会員獲得につなげる。

令和7年度 事業計画（案）



ローカルSDGs四国のビジョン、行動指針をふまえ
令和7年度は以下のことを実施します。

- ① 2030年に向けたLS四国ロードマップ推進
- ② 広報の強化（広報戦略に基づく広報の推進）
- ③ マッチング・仲間づくり、さらにその後の事業創出に
つながる対話の場・共創の場づくり（イベント・学びの場づくり等）
- ④ 分科会活動の活性化（支援）・情報共有化

①2030年に向けたLS四国ロードマップの推進

LS四国の重点テーマ、取組内容（機能面）強化の2側面で2030年とその先を見据えた取組みを推進する。

重点テーマ

行動指針で定める重点テーマ（**ウェルビーイング**、**脱炭素**、**サーキュラーエコノミー**、**ネイチャーポジティブ（自然再興）**、**一次産業**など）に関わる情報を収集し、**会員や協力機関**に提供、2030年とその先に向けた方向性を探る。

- ※国の方針、四国4県の総合計画やアクションプラン、経済団体の方針等に留意する。
- ※SDGsの考え方である「誰ひとり取り残さない」を信念に、一般の方の視点も加味する。
- ※横断的・包括的テーマとしてESDを位置づける。

取組内容（機能面）強化

ローカルSDGsに資する取組を創造していくため、LS四国の取組内容の充実や支援メニュー強化を図る。

- ※2030年に向けてのSDGsの進捗とポストSDGsに関する動向をテーマとした勉強会を開催する。

令和7年度 事業計画（案）



区分	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標	<ul style="list-style-type: none"> ①LS四国登録数(250) ②LS四国分科会(8) ③LS四国表彰(20) ④広報戦略策定 	<ul style="list-style-type: none"> ①LS四国登録数(300) ②LS四国分科会(9) ③LS四国表彰(20) ④広報戦略運用 	<ul style="list-style-type: none"> ①LS四国登録数(350) ②LS四国分科会(10) ③LS四国表彰(20) ④広報戦略見直し
業務概要	<ul style="list-style-type: none"> ①事務局で役割分担を行い、関係先訪問等の機会を活用して<u>登録数の向上</u>を図る。 ②四国で横断的なテーマを有する<u>ネットワーク候補先の抽出</u> ③各県からの応募・件数確保のための<u>広報を行う</u>。 ④広報戦略と業務フローを策定し、<u>業務を担える人材を増やす</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> ①主催イベントや出張イベント等の機会を有効活用して広報する。 ②候補先へのヒアリング等を通して分科会登録を呼びかける。 ③中間支援等からの推薦がもらえるよう働きかける。 ④広報戦略に沿った運用を行い、業務効率化と閲覧数の向上をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ①主催イベントや出張イベント等の機会を有効活用して広報する。 ②候補先へのヒアリング等を通して分科会登録を呼びかける。 ③中間支援等からの推薦がもらえるよう働きかけ、3カ年事業関係者への声かけする。 ④広報戦略運用のふりかえりと見直しを行う。

② 広報の強化

実施目標

- ・事務局からの情報発信に加え、会員が自発的に取組やつながりを発信するきっかけづくりを行う。
 - ・会員登録の推進に向けては、役員を含めたLS関係者、各県の企業団体や中間支援組織の協力を得て、会員の獲得を目指す。
- ①LS四国登録数、R6：228件→R7：250件→R8：300件→R9：350件（個人含む）
- ②LS四国分科会、R6：7件→R7：8件→R8：9件→R9：10件

実施内容

- ・LS四国の活動報告の掲載、表彰内容の掲載、会員の取組情報の発信（HP）
- ・会員に取組内容を案内いただき発信する。（HP・Platform Clover）
- ・国や県等の補助金・イベントなどの情報をkintone・Platform Cloverで発信する。
- ・四国EP0のFacebook、Instagram、Xを通して、情報発信を行う。
- ・四国EP0の「四国のおすすめ」と連動し、LS四国の会員登録や会員の取組を取材・記事として発信する。
- ・広報戦略と効率的な情報発信の体制づくりの検討
 - R7:広報戦略及び業務フロー策定
 - Facebookをはじめさまざまなツールがあり、ターゲット・求める内容も異なる。誰に向けて、どのような内容を発信すべきか、ツールに応じて整理・明確化した広報戦略や流れを可視化した業務フローを作成する。
 - 広報の体制を強化するため、担い手の育成や人員の増加を行う。
 - R8:運用 →R9:ふりかえり

地域の人、資源、金融・経済、情報をつなぐ場として、脱炭素、循環経済等をテーマとした情報交換会を開催する。

③対話・共創の場づくり

■四国内におけるネットワーキング会

目的	地方公共団体と民間事業者等との間で人的ネットワークを構築し、脱炭素、循環経済等における地域課題の解決を推進していくことを目的とする。
日程	10月21日（火）午後
概要	100名程度(会場)
対象	地域課題を抱える地方自治体や事業者、金融機関、他多様な主体
場所	高松シンボルタワー展示場（香川県高松市）
備考	・ブース出展形式で各社の取組み紹介を行う。（20社・団体程度） 共催：LS四国、環境省四国事務所、四国経済産業局、四国経済連合会（予定）

令和7年度 事業計画（案）（詳細）



③対話・共創の場づくり

■LS四国表彰式

目的	LS四国のビジョン・行動指針の内容に即し、ローカルSDGs（地域循環共生圏）の考え方に資する事業や取組を表彰し、広く紹介する。
日程	1回、2月頃、2時間程度
概要	会場参加30名程度を想定
対象	四国内で地域循環共生圏に資する取組を行っている団体、関係者、一般参加者
場所	BBスクエア（香川県高松市）
内容	受賞団体による取組発表、交流
備考	<ul style="list-style-type: none">・7月の総会で表彰式の内容を周知し、11月中～下旬より募集開始予定。・募集開始時にHP上で応募内容や準備書類について説明した動画を公開。応募期間中は随時質問等の対応をする。
留意事項	<ul style="list-style-type: none">・募集件数を維持するため募集期間や声掛けなどを早めに行う（関係者から推薦を募る）。 ※応募件数、R7：20件→R8：20件→R9：20件・企画・運営委員会で昨年度の手順や手法等をふりかえり、円滑な運営につなげる。・既受賞団体とも連携が促進されるよう、表彰式の開催形式や副賞選定に配慮する。・受賞団体同士の学びあいや今後のつながりを創出する。

④分科会活動の活性化（支援）・情報の共有化

<p>目 標</p>	<p>1) 四国内で環境保全活動や地域循環共生圏づくり活動、SDGs取組等を行っている団体等の情報を収集し、可視化する。 （→四国EPO事業で実施「四国の環境活動市民白書(仮)作成」）</p> <p>2) 2030年に向けてのSDGsの進捗とポストSDGsに関する動向を把握する。</p>
<p>期 間</p>	<p>1) 通年（3カ年実施・令和7～9年度まで）</p> <p>2) 9月～12月頃</p>
<p>内 容</p>	<p>1) 四国内SDGs取組み情報収集・可視化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LS四国表彰対象団体のその後の活動把握を始め、他賞受賞記録、既存の統計や四国4県の新聞記事等から情報収集する。 ・分科会の活動状況やニーズ把握、新たな課題・ニーズを模索している事業活動を掘り起こし、分科会等の活動につなげる。 ・令和7年度は、広く収集した事業・活動のうち、先進的とみられる10事例程度について、内容をヒアリングしてとりまとめ発信する。 <p>2) SDGs・VNR勉強会（仮称）の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs市民社会ネットワーク等の協力を得て開催する。

令和7年度 年間スケジュール（案）



	R7(2025)年度												備 考
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
企画・運営委員会				第1回				第2回		表彰 審査会			
総 会				総会									
イベント主催							○ ネットワ ーキング 会	○ 勉強会			○ 表彰式		分科会 への協 力・支 援
会報発行							○					○	